

「くまもと子どもプラン21」での子育て支援の具体例



●保育所での延長保育の推進

保育所では、保護者の働き方の多様化、通勤時間が長くなっていることなどに対応するため、時間を延長して保育を行っています。



●地域子育て支援センター事業の推進

保育所では、地域の子育て家庭からの子育てについての不安や悩みの相談に応じたり、サークル活動の支援などを行っています。



●放課後児童クラブの普及促進

昼間仕事などで保護者が不在の小学校低学年の児童を、学校終了後預かっています。



●幼稚園での預かり保育の推進

幼稚園では、保護者の希望に応じて、通常の教育時間を超えて子どもを預かっています。



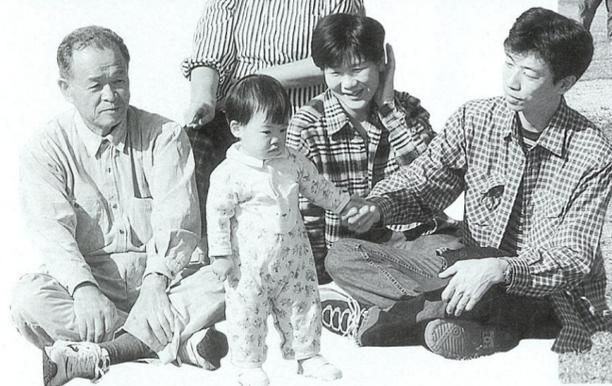
●乳幼児健康支援デイサービス事業の促進

子どもが病気の回復期にあって保育所に預けることができない場合、乳児院などの児童福祉施設、病院、診療所に付設した一時預かりの施設などで、子どもを預かっています。

●児童虐待などについての相談・対応の充実

児童虐待の問題に対しては、児童相談所が中心となって、問題が深刻化する前に早期発見・早期対応を図ったり、地域できめ細やかな援助を行うためのネットワークづくりを行っています。また、昨年10月に開設された児童家庭支援センター「キッズ・ケア・センター」では、24時間体制で子どもに関する相談に応じています。

中央児童相談所(熊本市) ☎096-381-4411
八代児童相談所(八代市) ☎0965-33-3111
キッズ・ケア・センター(荒尾市) ☎0968-62-0222



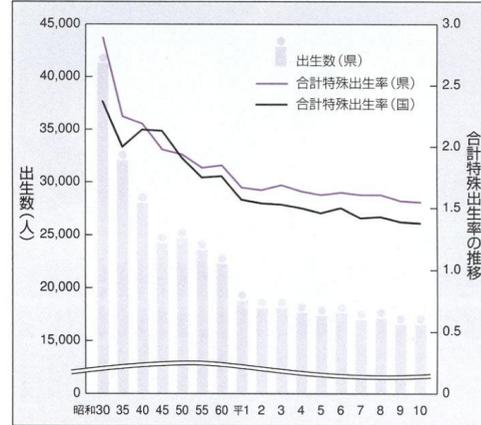
特集 1

みんなで考えよう、「少子化」のこじ

子どもたちの未来に向けて

夢いっばいの

【出生数及び合計特殊出生率の推移】



(合計特殊出生率:一人の女性が一生の間に産む子どもの数)

減の傾向が顕著になっています

一年間に生まれてくる子どもの数は、昭和四十年には、全国で約八十万、熊本県では約二万九千人でしたが、平成十年には全国で約百二十万人、熊

「子ども子育て支援法」の施行について

熊本県では、国のエンゼルプランを受けて平成九年に「くまもと子どもプラン21」を策定。次代を担う子どもたちが健やかにたくましく育ち、また、安心して子どもを産み育てることのできる「子ども子育て支援社会の構築」を目指しています。二十一世紀を担う子どもたちの健やかな成長のために、家庭や地域、企業などそれぞれの立場で、「少子化」「子育て」について身近な問題として考えてみましょう。県では、今後の施策に生かしていきたいと思っておりますので、皆さんのご意見をお待ちしています。

「少子化」「子育て」に いつか、県民の方から次の ような声も聞かれます。

「子育ては楽しいこのよさを語り伝えたい。」
(ハネルティスカッションの
あゆみ保育園田中昭子さん談)

「保育所では、たくさんのお子さんをお預かりしています。仕事でありながらも、子どもと過ごすことは楽しいこと、子どもから元気ももらえます。この楽しさを、お父さん、お母さんや、一日中子どもと向き合っているお母さんに伝えたり、楽しく子育てができるようにお手伝いをしていきたいと思っています。」

「子どもってすばらしい！夫はお金がかかるからだめというが、もう一人産みたいと思っています。」
(三十代 女性)

「子どもはみんな未来の可能性を秘めたすばらしい存在。子育ては、子どもも親もともに育つ楽しい作業です。」
(四十代 女性)

「少子化対策として、子育ては男女がともに行うものという意識の広がりが必要ですね。」
(四十代 男性)

「子ども優先の社会づくりをするべき、また、子どもを産み育てることに重要性や大変さを母親だけでなく、社会全体で分担できればよいと思います。」
(三十代 女性)

「少子化社会を考える熊本県民大生」
(平成十一年十一月二十日開催より)

■ご意見のあて先・お問い合わせ先／熊本県児童家庭課 〒862-8570 ☎096-383-1111(内線7123)

知事室から



熊本県知事 福島 隆二

平成十二年、西暦では二〇〇〇年という区切りの年がスタートしました。二十世紀の締めくくりとして、皆様も心を新たにされたことと思います。昨年は、大きな災害の発生や「くまもと未来国体」「ハートフルくまもと大会」など、慌ただしくも印象に残る一年でしたが、県民の皆様のご協力をいただき、さまざまな分野で着実に県政を進めることができたものと思っております。今年、節目ともいえる局面を迎えます。四月には、県事務所・保健所・土木事務所を統合した地域振興局を設置し、地方分権時代にふさわしい効率的・効果的な地域の実情に応じた行政サービスに取り組むとともに、これまで準備を進めてきた介護保険制度も正式にスタートします。県財政も厳しい状況にありますが、行政改革や情報公開、財政の健全化に取り組むながら、経済・雇用対策をはじめ、生活基盤の整備など県民の生活向上に必要な施策を積極的に進めて参ります。また、現在、将来の熊本づくりの指針となる新しい県総合計画の策定を進めておられます。「二十一世紀への責任と挑戦」を基本姿勢とし、今後の県政の具体的な取組み内容を示したいと考えております。新しい熊本づくりに向けて、皆様より一層のご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、健康に留意され、心に残る一年を過ごしていただきますようお願いいたします。

どうなる少子化社会

子どもが健やかに成長できるか心配？ 子どもは、遊びやさまざまな人とふれあいを通じて、豊かな想像力と個性を自然に身につけていきます。また、社会の担い手としての自覚やほかの人への思いやりを育んでいきます。しかし、少子化の進行は子どもの数の減少による親の過保護や過干渉、子ども同士、特に年齢の異なる子ども同士の交流機会の減少などにより、子ども自身の健やかな成長への影響が心配されます。

生産力はダウン、負担はアップ？

少子化による生産年齢人口の減少、特に若年労働力の減少は、新しい技術への対応力を弱め、国全体の生産力を低下させます。また社会保障や福祉サービスなどの分野で若い世代の負担が増えることとなります。

なぜ「少子化」になるの？

近年、結婚する年齢が上昇しており、いわゆる晩婚化が進んでいます。それに伴い、第一子をもうける年齢が高くなり、一生のうちに生まれる子ども数も減少しています。

根強い男女の役割分業意識

昭和六十一年、男女雇用機会均等法が施行され、女性もやりがいの感じられる仕事に就く機会が増えました。しかし、「家事・育児は女性」という役割分業意識は依然として根強く、男性の家事・育児への参画は極めて少ないのが現状です。

教育費など子育てコストの増大

夫婦が理想の子どもの数を持たない理由として、「子育てにお金がかかる」「高齢で産むのがいや」「心理的・肉体的負担」が多く、特に経済的負担を理由とする人が三割を超えています。